

備前市施策評価シート

(平成18年度事業)

施策名 (小項目)	健康づくり	コード	作成者	役職	保健課長
		02-02-06	氏名	末長章彦	
			電話	64-1819	

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	健康でやさしさあふれるまちづくり
	中項目(基本施策)	健やかで生き生きしたまちづくり
施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	市民の健康づくりリーダーである愛育委員や栄養委員を養成し、市民の健康に対する意識を高め健康増進を図る。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	「健康びぜん21」に基づいた保健事業を展開し、市民の健康寿命の延伸を図り、QOLの向上を期すが、これらを市民協働で実現できるよう健康づくりリーダーの養成や組織育成を行いマンパワーの充実を推進する。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査受診啓発活動</li> <li>地域における食育活動</li> <li>健康づくりの基盤整備</li> </ul>	

施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	事業費(単位:千円)						優先順位 その他
			H17		H18		H19		
			直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費	
1 愛育委員会事業	B	愛育委員会事業	3,778	10,377	3,791	9,005			
2 栄養委員会事業	B	栄養委員会事業	2,317	7,347	2,236	9,285			
3 健康づくり推進協議会事業	C	健康づくり推進協議会事業	52	425	20	505			
4 献血事業	B	献血事業	0	2,323	0	2,200			
5 救急医療事業	B	救急医療事業	3,400	756	3,309	885			
6 保健センター管理運営事業(庶務事業)	C	保健センター管理運営事業(庶務事業)	6,610	16,490	3,554	760			

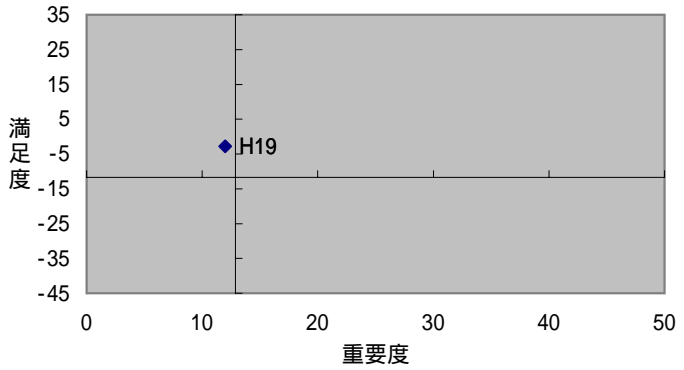
この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)	H17 53,875	H18 35,550	H19
------------------------	---------------	---------------	-----

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)	12.0		
満足度(%)	-2.8		



高  
↑  
満足度  
↓  
低

高 ← 重要度 → 低

<見直し領域> その施策や事業が必要か否かの検討が必要	<維持領域> 現状の方向を継続
<検討領域> その施策や事業の存続の検討が必要	<強化領域> 内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う

調査結果に対するコメント、市民の反応等	自分の健康に気をつけている市民は増加している。 (平成18年度調査 88.1% 平成19年度調査 88.4%)
---------------------	--

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	評価年度		目標値		ベンチマーク	指標の説明
		H17	H18	H23	H28		
1 自分の健康に気をつけている市民の割合	目標	%	100.0	100.0	100	100	市民意識調査
	実績	%	88.1	88.4			
	達成率	%	88.1	88.4			
2 愛育委員研修会の参加率	目標	%	83.0	82.0	85	90	愛育委員会活動
	実績	%	80.5	82.4			
	達成率	%	97.0	100.5			
3 栄養委員研修会の参加率	目標	%	78.0	78.0	78	78	栄養委員会活動
	実績	%	75.0	80.0			
	達成率	%	96.2	102.6			
4 愛育委員一人当たり担当世帯数	目標	戸	40.0	40.0	40	40	
	実績	戸	38.3	38.5			
	達成率	%	95.8	96.3			

施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	4	健康づくりリーダーのレベルは向上している	4	地道な活動が成果を上げている。
2 事業構成の適当性	4	健康づくりの基盤整備ができる事業構成となっている。	3	事業構成は妥当であるが、委員定数の見直しが必要である。
3 施策の有効性	4	個人情報保護の観点から健康管理機能の強化と、地域との信頼関係構築は両立している。	4	健康づくりの協働は欠かせない有効な施策である。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示	健康づくりリーダーの愛育委員・栄養委員が市長委嘱でなく、地域ボランティアとして活動できるよう、個々の人材育成をし、組織活動ができるよう基盤整備に努める。		地域住民と委員との信頼関係が重要である。各家庭の状況把握が難しくなっている今日、気軽に相談ができるコミュニケーションづくりの構築を図って行く必要がある。	
二次評価者コメント 役職 保健福祉部長 氏名 鷗川 晃匠	市民への健康意識の高揚は、愛育委員・栄養委員の活動が欠かせない。年間を通じて、各地域での検診、情報伝達など地道な活動が成果を上げている。今後とも、さらに関係機関と連携を強化して健康意識を高めていく必要がある。平成20年度予算の方向性としては、委員定数の見直しを行うこととして前年度並みの配分とする。			平成20年度 予算の方向性 前年度並みの配分